

又ハ年輪無限ノ爲メ解雇スル場合ハ解雇手當ヲ支給スル外特別手當ヲ支給セズ不具者は、之を手にして震へた、自殺を強請せられたと同じであり、彼が死體は當に他殺でなくて何であらう。二十人近い不具者は相續いで泣いた、恨んだ、哭泣した、或は精進士に、或は縣廳に、血眼になつて泣きついたが、戦ふ可く組織を持たぬ拾小舟の彼等は、只自滅を覺悟する他はなかつた。一千の労働者は、友愛の涙に暮れた、然し上役は彼等が同情の色を見て、怖しき眼を付けた、彼等は怖しさに震へ戦いた、製鋼所の労働者は、仲間の者を、同情する事すら怖しい禁制であつた。組織を持たない一千の職工は、只恐怖と不安に襲はれて、沈黙を續けた。木を倒さんとする時は先づ葉を落せ、枝を折れ、而して樹を切れとは、製鋼所が、労働者を誠首する戦法である、最も可弱い、抵抗のない不具者を先づ誠首したのである。

4、軍縮に依る一般職工の誠首

平和會議が齎した、軍備縮少の結果は、吾が神戸製鋼所に於ても、六月初旬頃より、ボツ／＼と、一般職工を二人三人と誠首し始めたが、誰一人として、解雇手當の少額なるを口に出す者も無かつた。で、會社は最早や不平を言ふ者は大丈夫無いと思ふて、七月一日に入つて、八十餘名を一時に誠首した、此處に於て日本労働同盟神戸聯合會所屬の東神鐵工組合(現神戸機械労働組合)では、黙するに忍びずとして、俄然神戸製鋼所の不當解雇を糾弾して、誠首團に應援をした、一方解雇者は、失業の浮き目に遇ひ、家には、老ひたる父母あり、泣き叫ぶ子供を抱ける妻あり、然かも、解雇手當は、他の會社と比較すればお話しならぬ程の少額であつた、此の不景氣の時に何日就業し得るやの的も定め難してあるから、會社に向つて、先づ解雇手當の増

したが、未だ戦費も調はず、訓練も計取らざる時は、反つて、不利であるを知つて、一時自重した。

5、第七工場及び第十五工場場の争議

自重は果して吾等に力を與へた、吾等は來るべき時の準備として、工友會及び、親友會等を組織し訓練し基金を積んだ。準備は愈々整ひ計畫は出來た、先づ第七場及び、第十五工場の兄弟は、解雇手當の嘆願書を提出した會社は十七日に回答するとして受取つた。十七日正午になるも、言を左右にして回答せぬ、この會社の不誠意なる態度に憤慨した兄弟は、憤然として退場した。其の勢に恐れれた會社は周章狼狽し、古き規定の解雇手當を發表した(從來與へて居たもの)越えて、十八日こんな古臭い解雇手當は、何になるか。先きの日の誠首者はこれが増額を迫つたのでないが我々はこんな事では、承知が出來ないとして、

額を嘆願したが、例により聞き入れず、こゝに於て吾等は、軍縮の解雇であるから、當然より以上の手當を支給せよと要求した、理由は、軍縮に依る被誠首者は、世界平和の最大犠牲者であるから、會社はよろしく最大限度の手當を給すべきである、例へば配當額の減少をすとか、不用品賣却等に依つたり共支給せよと言つたが「それは出來ぬ、そんな事をしては、會社は立ち行かぬ(株主に申譯ないため)」と彼は言ふ、思へ、株主とは何ぞ株主とはほとんど遊んで、贅澤をして、俺達の汗と血を絞り取りて喰つて居る、遊民階級ではないか? 殊に、製鋼所に於ては岩坊とか言ふ天下第一の放蕩息子がある」とて、遂に前後四回の交渉も得る事がなかつた。此の間梅雨期の中をも屈せず、前後五回の演說會に或は在職の兄弟に、解雇手當の少額なるを訴へた、在職の兄弟は、コレが對岸火事視する事が忍びずとて、正に同情罷業に入らんとし

此度は當然の主張として、要求書を提出したが、會社は、水掛論に依つて、ごまかさんとした。かくと見た、職工は、職工大會を開きて、飽く迄要求の貫徹を、期するため、今日より後は、同盟罷業を執行する事にした、會社は、此の形勢を見て、二十一日より三十一日迄休業を發表したが、團員は、互に結束を相固めた一方、演說會に氣勢を擧げ、或は神戸市民諸君に訴ふ。ビラを散布して、惡辣極まる代表的奸商の鈴木商店經營神戸製鋼所を

て、下山した、此の間積立金の返却を迫つたので、會社は、募所の苦しい中に在るが預かつた人の金であるから、返済の餘儀なくされ、二日の正午、全部の返金をしたので、益々結束を強くした、そして、行商隊を組織して、愈々持久戦に、云つた時の結束よりはトモ入場しそに思はれないから、會社は又も七日より十五日迄再度の休業を發表した。裏切者養成に、獨特の技量を以つて誇る製鋼所は、右谷人事係をして、切迫の慮自